

藤井興一右衛門

ふじい・よいちえもん

くろがねや当主

経歴

生:明治19年(1886年)6月

没:(不明)

明治31年(1898年)	12歳	くろがねや当主(第12代)の地位を継ぐ
明治37年(1904年)	17歳	広島県立第二中学校(誠之館)卒業
—	—	早稲田大学卒業
大正11年(1922年)	36歳	福山電気化学株式会社社長
—	—	帝国魚網株式会社社長
—	—	日本木材工芸株式会社社長
—	—	広島県農会特別議員
—	—	福山教育義会財団専務理事
—	—	藤井農業合資会社代表社員
昭和25年(1950年)9月	—	藤井酒造株式会社社長
—	—	福山体育会会長
昭和34年(1959年)	73歳	中国文化賞

生い立ちと学業、業績

明治19年(1886年)6月に、福山市宝町において豪商「くろがねや」藤井興一右衛門(第11代・廣一)の長男に生れる。

幼名は裕吉。

誠之館、早稲田大学出身。

父は明治31年(1898年)、12歳の時に亡くなり、ただちに家督をついだ。

戦前福山市民の知らぬはなかった巨富を擁する「くろがねや」の当主として代々の当主名・興一右衛門を名乗った。

藤井家は深津、安那、沼隈、品治の四郡に広大な農地を所有し、松永町では塩田を、福山市では清酒・保命酒の醸造業を営む豪商であった。

こうした大家に生れ育ちながら、氏は身を持すること固く且つ厳しく、不正不義を許さぬ潔癖とで、高邁な人格者として知られて来た。

終戦後、日本経済の大きな変革により、藤井家の蒙った打撃は大きかったが、昭和25年(1950年)9月藤井酒造株式会社に改組、また大正11年(1922年)以来の福山電気株式会社と併せて、依然福山実業界に不拔の地位を確保しつつあり、依然福山財界の巨星である。

そしてスポーツ体育に専念し、漕艇、徒歩、登山などの普及奨励に打込んだ。

早くから福山体育会や、福山山岳会を創設し、今もなお高齢ながら、徒歩登山の会には率先して参加するなど、福山体育界に大きな貢献を示し、さらに現在も福山体育協会の顧問に推されている。

昭和34年(1959年)度の中国文化賞は体育部門の一大功労者として、福山市の藤井與一右衛門氏の頭上に輝いた。

藤井氏が若い頃から営々として倦くことを知らず73才の今日まで体育もスポーツに力を尽して来たことが、初めて報われたと云うべきであろう。

建築家の藤井厚二は氏の実弟。

出典1:『政治産業文化備後総合名鑑』、11頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年

出典2:『福山学生会雑誌(第62号)』、165頁、福山学生会事務所編刊、大正15年7月12日

2005年1月18日更新:経歴●2005年5月31日更新:本文●2006年6月30日更新:タイトル●2008年7月8日更新:経歴・本文●2009年12月18日更新:経歴・本文●